



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月4日  
上場取引所 東

上場会社名 あすか製薬株式会社  
 コード番号 4514 URL http://www.aska-pharma.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 隆  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 小林 秀樹 TEL 03-5484-8366  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月11日 配当支払開始予定日 平成26年11月28日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	23,195	15.8	1,070	50.6	1,177	39.9	836	60.0
26年3月期第2四半期	20,026	△0.6	710	11.4	841	8.9	522	△29.5

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 1,313百万円 (4.3%) 26年3月期第2四半期 1,259百万円 (99.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	30.05	—
26年3月期第2四半期	18.83	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	57,204	35,608	62.1
26年3月期	51,269	33,941	66.1

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 35,528百万円 26年3月期 33,905百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
27年3月期	—	7.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	11.4	1,200	67.6	1,400	35.8	1,000	101.8	35.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

詳細は、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	30,563,199株	26年3月期	30,563,199株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	2,731,109株	26年3月期	2,756,244株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	27,820,479株	26年3月期2Q	27,750,159株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、かつ様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
4. 補足情報 .....	10
(1) 主力品の売上高 .....	10
(2) 臨床開発状況 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は231億9千5百万円（前年同期比15.8%増）、営業利益は10億7千万円（前年同期比50.6%増）、経常利益は11億7千7百万円（前年同期比39.9%増）、四半期純利益は8億3千6百万円（前年同期比60.0%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

## ①医薬品事業

経皮吸収型鎮痛消炎剤セルタッチや長期収載品である前立腺肥大症・癌治療剤プロスタール、消化性潰瘍・胃炎治療剤アルタットの売上が引き続き減少したほか、前立腺癌治療剤ビカルタミドや経口避妊剤アンジュの売上減もありましたが、本年9月に全国に先駆けて発売したオーソライズド・ジェネリック カンデサルタンやLH-RH誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤リユープロレリンが売上増加に大きく貢献した結果、売上高は212億4千4百万円（前年同期比17.1%増）、セグメント利益は19億3千8百万円（前年同期比21.7%増）となりました。

## ②その他

その他事業として動物用医薬品、検査、医療機器、食品等を展開しております。動物用医薬品が主要な分野であり、コンパニオンアニマル製品等の売上が増加したこと等により、売上高は19億5千万円（前年同期比3.3%増）、セグメント利益は1億1千3百万円（前年同期比1.6%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ59億3千5百万円増加し、572億4百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金および現金及び預金等が増加したためであります。

負債につきましては、42億6千7百万円増加し、215億9千5百万円となりました。これは退職給付に係る負債等は減少しましたが支払手形及び買掛金およびその他等が増加したためであります。

純資産につきましては、16億6千7百万円増加し、356億8百万円となりました。これは退職給付会計基準の改正に伴う会計処理の変更および四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したためであります。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から4.0ポイント低下し62.1%となっております。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ18億6千6百万円増加し、81億8千5百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、18億6千3百万円（前年同期は11億7千7百万円の増加）となりました。これは売上債権が増加しましたが、仕入債務およびその他の負債、税金等調整前当期純利益が増加したためであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果増加した資金は、2億4千7百万円（前年同期は9億6千6百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得はありましたが、有価証券の償還による収入によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、2億4千4百万円（前年同期は3億6千9百万円の減少）となりました。これは主に短期借入金の増加はありましたが、長期借入金の返済によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月13日に公表した平成27年3月期の連結業績予想につきまして、当第2四半期連結累計期間の業績を鑑み、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益を以下のとおり修正いたします。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,000	1,000	1,300	800	28.77
今回修正予想 (B)	44,000	1,200	1,400	1,000	35.93
増減額 (B-A)	1,000	200	100	200	—
増減率 (%)	2.3	20.0	7.7	25.0	—
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	39,501	716	1,031	495	17.85

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が832百万円減少し、利益剰余金が536百万円増加しております。なお、勤務費用の計算方法が変更されたことによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用)

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成25年12月25日）を第1四半期連結会計期間より適用しておりますが、当期首より前に信託契約を締結し、従来採用していた方法による会計処理を継続しておりますので、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,269	5,035
受取手形及び売掛金	7,442	11,791
有価証券	2,650	3,150
商品及び製品	6,422	5,798
仕掛品	913	1,140
原材料及び貯蔵品	1,896	2,092
その他	2,520	3,229
流動資産合計	26,115	32,239
固定資産		
有形固定資産	12,400	12,379
無形固定資産	695	584
投資その他の資産		
投資有価証券	7,220	7,754
その他	4,933	4,332
貸倒引当金	△113	△95
投資その他の資産合計	12,040	11,991
固定資産合計	25,137	24,955
繰延資産	16	9
資産合計	51,269	57,204
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,074	6,384
短期借入金	1,441	908
未払法人税等	43	958
賞与引当金	973	936
その他の引当金	203	233
その他	2,493	4,589
流動負債合計	9,229	14,009
固定負債		
長期借入金	116	587
退職給付に係る負債	7,444	6,686
その他の引当金	292	270
その他	244	41
固定負債合計	8,098	7,585
負債合計	17,327	21,595
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	845	845
利益剰余金	33,107	34,285
自己株式	△2,487	△2,474
株主資本合計	32,663	33,853
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,642	2,058
退職給付に係る調整累計額	△399	△382
その他の包括利益累計額合計	1,242	1,675
少数株主持分	35	80
純資産合計	33,941	35,608
負債純資産合計	51,269	57,204

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	20,026	23,195
売上原価	11,265	14,374
売上総利益	8,760	8,820
返品調整引当金繰入額	1	6
差引売上総利益	8,759	8,813
販売費及び一般管理費	8,048	7,743
営業利益	710	1,070
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	79	80
不動産賃貸料	108	115
その他	9	19
営業外収益合計	200	218
営業外費用		
支払利息	5	7
賃貸借契約解約損	—	64
その他	63	38
営業外費用合計	69	110
経常利益	841	1,177
特別利益		
関係会社株式売却益	—	58
特別利益合計	—	58
特別損失		
事業再編損	—	73
特別損失合計	—	73
税金等調整前四半期純利益	841	1,162
法人税、住民税及び事業税	158	919
法人税等調整額	143	△637
法人税等合計	302	281
少数株主損益調整前四半期純利益	539	880
少数株主利益	17	44
四半期純利益	522	836

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	539	880
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	719	416
退職給付に係る調整額	—	16
その他の包括利益合計	719	433
四半期包括利益	1,259	1,313
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,242	1,269
少数株主に係る四半期包括利益	17	44

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	841	1,162
減価償却費	1,118	867
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	210	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	100
受取利息及び受取配当金	△82	△83
支払利息	5	7
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△58
事業再編損	—	73
売上債権の増減額 (△は増加)	1,220	△4,349
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△794	200
仕入債務の増減額 (△は減少)	720	2,277
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△383	496
確定拠出年金移行に伴う未払金の増減額 (△は減少)	△162	△162
その他の負債の増減額 (△は減少)	△448	1,410
その他	△324	△324
小計	1,922	1,618
利息及び配当金の受取額	84	85
利息の支払額	△6	△7
事業再編による支出	—	△13
特別退職金の支払額	—	△83
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△822	263
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,177	1,863
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△500	—
有価証券の償還による収入	100	600
有形固定資産の取得による支出	△579	△364
無形固定資産の取得による支出	△50	△136
関係会社株式の売却による収入	—	70
その他	63	78
投資活動によるキャッシュ・フロー	△966	247
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△167	467
長期借入れによる収入	—	500
長期借入金の返済による支出	△29	△1,029
自己株式の純増減額 (△は増加)	21	12
配当金の支払額	△194	△194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△369	△244
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△157	1,866
現金及び現金同等物の期首残高	6,578	6,318
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,420	8,185

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 (注) 3
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	18,138	1,887	20,026	-	20,026
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	24	24	△24	-
計	18,138	1,912	20,050	△24	20,026
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,593	115	1,708	△998	710

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、動物用医薬品、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△998百万円には、各セグメントに配分していない全社費用△998百万円が含まれております。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 (注) 3
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	21,244	1,950	23,195	-	23,195
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	24	25	△25	-
計	21,244	1,975	23,220	△25	23,195
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,938	113	2,051	△981	1,070

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、動物用医薬品、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△981百万円には、各セグメントに配分していない全社費用△981百万円が含まれております。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

当社グループのセグメント区分は、従来、「医薬品事業」および「その他の事業」の2つの事業セグメントに区分し、「医薬品事業」を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「医薬品事業」「動物用医薬品事業」および「その他の事業」の3つの事業セグメントに区分することといたしました。

これは、平成26年6月に実施したあすかアニマルヘルス株式会社への事業の分割に伴い、医薬品事業の意思決定プロセスを見直した結果「医薬品事業」に含まれておりました動物用医薬品等の製造、販売ならびに輸出入に関する事業を「動物用医薬品事業」に区分したためであります。ただし、「動物用医薬品事業」と「その他の事業」については重要性がないため報告セグメントに含めず、「その他」として表示し、「医薬品事業」を報告セグメントとしております。

なお、当該セグメント区分の変更に伴い、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成しております。

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、報告セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に變更いたしました。

なお、この変更による各セグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

4. 補足情報

(1) 主力品の売上高

主 力 品 の 売 上 高  
(平成27年3月期 第2四半期実績)

(単位:億円)

品 目 名	前 期 平成26年3月期		当 期 平成27年3月期		対前年同四半期 増減率 (%)
	第2四半期 実績	年間実績	第2四半期 実績	年間見込	
高血圧症治療剤 カンデサルタン	-	-	33.8	81.5	-
甲状腺ホルモン剤 チラーゼン	23.4	46.0	23.9	48.4	2.1
高脂血症治療剤 リピディル	21.2	44.2	23.6	46.3	11.4
経皮吸収型鎮痛消炎剤 セルタッチ	25.8	34.5	14.9	14.9	△ 42.4
前立腺癌治療剤 ビカルタミド	10.6	21.2	9.4	18.3	△ 11.3
高血圧症治療剤 アムロジピン	9.4	18.7	9.2	18.5	△ 1.6
LH-RH誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤 リュープロレリン	-	3.2	7.8	19.3	-
前立腺肥大症・癌治療剤 プロスタール	8.4	16.3	6.7	12.7	△ 20.0
消化性潰瘍・胃炎治療剤 アルタット	6.4	11.9	4.9	9.4	△ 23.1
プロトンポンプ阻害剤 ラベプラゾール	3.8	8.4	4.5	9.0	19.9
経口避妊剤 アンジュ	5.5	12.2	4.3	9.6	△ 21.4
緊急避妊剤 ノルレボ	3.2	7.0	4.0	7.5	26.3

## (2) 臨床開発状況

臨床開発状況

(平成26年11月現在)

平成26年11月4日  
あすか製薬株式会社  
東証市場第一部  
コード番号 4514

区 分	品 名 (開発番号)	物 質 名 (一 般 名)	領 域・効 能	備 考
申請準備中	(AKP-008)	黄体ホルモン(プロゲステロン)剤	IVF-ETにおける黄体補充 (腔用坐剤)	自社開発
申請準備中	(AKP-007)	消化管ホルモン分泌抑制剤	内分泌・消化器領域	自社(付加価値製剤)
Phase II/III	(L-105)	リファキシミン	肝性脳症 過敏性腸症候群(IBS) クローン病(CD)	Alfa Wassermann S.p.A.(イ タリア)より導入
Phase II	(CDB-2914)	選択的プロゲステロン受容体調節剤	子宮筋腫 緊急避妊	Laboratoire HRA Pharma,SA(フ ランス)より導入
Phase II	(AKP-002)	PDE9阻害剤	前立腺肥大症に伴う排尿障 害等	自社開発 (アステラス製薬(株)へ導出)
Phase I	(AKP-501)	遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン (rFSH)	不妊症	JCRファーマ(株)(旧社名日本ケミ カルリサーチ(株)からの導入及 び共同開発